

休日向上計画

佐藤 透¹⁾

Toru SATOH

1) 医療法人社団涼風会佐藤脳神経外科
〒729-0104 広島県福山市松永町 5-23-23



サギ太くん捕獲大作戦

はじめに

アオサギ(蒼鷺)は、コウノトリ目サギ科で、全長90～98 cm、翼開長160～175 cmにもなり、日本のサギの仲間では最大となる怪鳥である。樹上に枯枝・枯草で大きな皿型の巣を作り、一夫一妻の律儀なつがいが、年に1回4～9月にかけて繁殖する。ゴア〜という鳴き声で雨を呼ぶ。山下達郎の歌に登場するあの伝説の“ヘロン”がこの鳥で、アジア各国では崇拝されている。今回は、水庭の珍客、アオサギのサギ太くん、その捕獲大作戦を実況中継してみます。

サギ太くん、水庭にあらわる

2008年、12月は晦日の30日、昼下がりのひととき、なんだか水庭が騒がしい。葦簾で覆った庭池から、ぱしゃぱしゃと、いつもにない不審な響きをする。この



図1 水しぶきのなかの置物、サギ太くん

時期だから水温は低く、池の住人・愛鯉のみなみさんは、のんびりお休みのはずだけど、ちょっと様子を伺ってみよう。

誰かおるかいな、だあれじゃい、葦の覆いをはぐった途端に、水しぶきが飛び散った(図1)。誰だこやつ、水庭池の隅っこ、そこには、置物のようなあのサギ太くん、鎮座しておられるじゃないか。いつの間にかどこから、この池に侵入したのだろう。

お遊びにおいでなさったかい、ほなら、いらっしゃい、てなわきゃねえ。こりゃあ、愛しい愛しい愛鯉を、またバクりに来やがったな。味をしめて、またぞろおいでなすったか、自然のものは正直だから、餌でもなければ、寄り付かない。こやつめえ〜けしからん。ほおたらんと(こらしめてやらんと)いけん。

盗人サギ太くん、愛鯉をたいらげる

あれは、ほんの3日前、12月27日の出来事、芝庭にサギ太が降り立った。いやあサギ太くん、このごろお元氣かい? 白い帽子に黒い瞳、凛として立つお姿は実にご立派、じっとしてこちらを伺っていなさる。ほんにお寒いのにご苦労ちゃん。ほほ〜、きょうびは、どちらまでお忍びなさるかな、はは〜ん、水庭はぜんぶ、葦簾で覆ってあるよ、残念でしたあまた来年〜。

あれえ〜、ほいほいと簾に乗って、ぬきあし・さしあし・しのびあし♪(図2)。まさかあ〜、白昼堂々とオイラの目の前で、盗人しようってわけじゃねえよ



図2 ぬきあし・さしあし・しのびあし♪



図3 ぎょへえ〜、でっかい魚をくわえてる〜



図4 な〜るへそ〜、飲み干した〜

な。げげっ、あそこらへんは、飼い犬タボチのお昼寝のショバ。葦簾の上でじゃれ遊ぶもんだから、簾がたわんで空いとるう〜、うう〜んやばい、こりゃ、危にゃあ〜かも。

その瞬間に、簾と簾のわずかなすき間から、S字の首を一直線に伸ばして水面に突進、くちばしを開いたままで戻る。ぎょへえ〜。でっかい魚をくわえてる〜(図3)。まさに瞬間芸、驚き・桃の木・山椒の木♪、あたりき・しゃりきよ・くるまひき♪。こいつは、ひれなが黄金錦鯉、秘蔵っ子“かぐや姫の姫子ちゃん”、明け3歳になる50cmもん、やられたあ。

ガラスを叩く音にあわてて、サギ太はすぐさま庭の隅っこに移動なさった。こんな重量物をくわえてもフラフラもせず、獲物はシッカと離さず、さすがに飛び立てない。でもこのままじゃあ、お口にゃ入りません。あれあれ、くちばしに載せたまま、はさみ直してやがる。暴れる鯉のかしらを喉に向けて、首を下に降ろして、また上にあげて、これを4〜5回繰り返して、最後は首をもたげて、ずんずんと頭から錦鯉を丸呑み。喉も首も軟らかく変形して、ありゃあ〜。ごっくりゴクゴク飲み込んで、ずんどうな徳利首になった(図4)。一本足でバランスとって、ガッツポーズをしてやがる。な〜るへそ〜、かしらを先頭に喉元に向かわせて、重力・舵力を応用して、ほんにうまいこと飲み込むも

んじゃな。おみごと！……じゃなかった。ココ感心してる場合じゃないデスヨ。怒るところデスネ。こりゃあ、りべんじ・revenge せんとけん。

汗と涙のサギ太くん大捕り物帖

きょうびは、よくもまた盗人に戻ってきたもんだ。葦の簾にびっしり囲まれた水庭空間。いったいどうやって捕まえるのか。棒でひとつき一撃するか、それともタモ網で生け捕りにするか。その前に、囲われの身のサギ太くんを、バシャバシャ入念にショットしておく。池の端っこを水中歩行するサギ太くん。ささっとな逃げ回る。凜として浮く水鳥と水面に移りこむその鏡像とが織りなす光景はファンタスティック(図5)。

さあて、ひとりでコレを退治するとなると、どうすっかな。思案投げ首。ただ追いかけて回しても網では捕まらない。近寄るとくちばしでつつかれる。う〜ん、そうだ水攻め作戦で行こう。この寒さ、ホースで冷水を浴びせて、体全体の体温を下げると、きっと衰弱して動けなくなるはず。よしこれでゆこう。決〜めたっつ。

さっそく散水ホースを引いてきて、先端銃をジェット水流モードにして、蛇口全開で水圧を最大にして、それいけ水鉄砲。寒風のなか、返り水の冷たさ・汚泥の臭さも忘れて、奴さん狙って水柱弾を浴びせた。逃げ回るスピードが落ちて、時折ヨタヨタ、よたっつき



図5 凜として浮く水鳥とその鏡像



図6 やったぜ〜ベイビィ

なすったぜ、そろそろタモ網の出番かな。池の隅に逃げ込んだ敵陣を急襲する。一度はタモ網を撥ねつけた輩やけど、グワ〜ア〜の一声、おとなしく網に取まった(図6)。やったぜ〜ベイビィ、思わず漏れる囁きの声、われニイタカヤマ登れり。

ずぶぬれに濡れた。水もしたたる囚われのサギ太がいる。とそのとき、う〜うわんわん、ワンワンワン、見れば、のらくろ同輩、タボチ上等兵が加勢に来てくれた(図7)。唯一の援軍、なんていいやつ、心強しかあ〜味方。あとでドッグフードにサラミ混ぜてあげるから、芝海老のおつまみもオマケに分けてやっから、内緒でビールもちよろっとこぼしてやっからな。う〜



図7 タボチ上等兵あらわる

んやっぱりひとりよりふたり、元気が出るな。タボチの威勢にひるんで、だんだんと動きが鈍くなる。今がチャンス、すばやくくちばしをつかんで、囚われのサギ太をむんずと持ち上げた。首を引っ張ると、あれっ、これって案外長く伸びるもんやなあ(図8)。

囚われの身のサギ太くん

これからどないすっかな、命乞いするつぶらな瞳。わる〜ございました、もうしません、お命だけはどうか助けてやってつかあさい、お代官さま〜、って懇願されてるようで、これって、なかなか悪くない気分じや。ほなら性根を入替えて、盗人から足洗って、生ま



図8 あれっ、これって案外長く伸びるもんやなあ



図9 お命だけは助けてやってつかあさい、お代官さま～

れ変わってやってみるっけ？ それなら、足環はめて、タボチとお揃いで、うちの番犬・番鳥に採用しようか、てなことにやらねえよな。

このまま凍死させるのは忍びない、ダンボール箱に入れて、車庫で保温すること2時間。ふたを開けると、そこには蘇ったサギ太がいた(図9)。あっ、勝手に箱から出やがった。こら部屋に入るなよ、飛び上がるなよ、大事なお車に乗っかるなよ、ツツクなよ、ウンチ垂れるなよ、こっちに向かってくんなよ、ってよく言い聞かせておいた。近寄ると逃げる。逃げると追いかける。車庫の中を鬼ごっこ、車の間をかくれんぼ。

ほならしょうがない、そろそろ逃があたるかい、車庫の扉を開ける、っとすぐにお待ちかね、タボチ上等兵がやって来た(図10)。奴さん、今は正気じゃからあぶにゃあ～ど、深追いすんなよ、意を汲んだかのように、やんわりとサギ太を追いかけて、扉のほうへと

誘導してくれた。外は冷たい冬の雨がばらばらと降っていた。ほならもうお帰りんなさるか、いろいろなことがあった一日じゃったな、天国と地獄を見たよな。生まれて初めての体験じゃでよ、チト悪かったな、いやあ～、お疲れさん。そんじゃね～サギ太くん、バイバイ～(図11)。

その後のサギ太くん

“サギ太の恩返し”ってきつとあるやも。2009年、新年の夜半を迎えて、待てど暮らせど、美しい好青年の来訪はいっこうにない。“道に迷ったので、一晩泊めてほしい”。って来ないなあ～、サギ太が反物織るって、せっかく織機と糸を準備するつもりで、じっと待っているのに。絶対お部屋なんかは覗かないのに、なんのへんてつもありやしねえ。助けるのなら、やっぱりメスのサギ子に限るやもね、う～ん残念。なあって、しょうもないことを想像する。imagine. ひまじんめ。

お正月明けの7日、いつもの朝、ああっ、来とる来とる～、来てやがる、サギ太くん。今度は屋根の隅っこから、遠慮がちにこちらを斜めに覗いている(図12)。どこ行ってたんじゃい、おまえ？ 心配しとったんじゃぞい、お元気そうでなによりじゃん。明けましておめでとうさん、生きとし生きるお仲間だよな。それでは今年もまたよろしくにね～。



図10 タボチ上等兵お待ちかね



図11 天国と地獄を見たよな～、お疲れさん

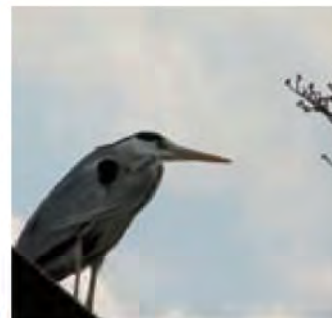


図12 ああっ、来てやがる、サギ太くん